

たく衛士にさし奉りたりけるに、御前の庭をはくとて、などや苦しきめを見るらん、我國に七三  
つくりすへたるさかつほに、さし渡したるひたえのひさごのみなみ風吹ば北になびき、北風ふ  
けば南になびき、西吹ば東になびき、東ふけば西になびくを見て、かくてあるよと獨りごちつぶ  
やきけるを、その時帝の御女いみじうかじつかれ給ふた、ひとりみすのきはに立ちいでたま  
ひて柱によりかゝりて御覽するに、此の男のかく獨ごつをいと哀にいかなるひさごの、いかに  
なびくらんと、いみじうゆかしくおぼされければ、みすをしあけて、あの男こちよれとめしけれ  
ば、畏まりて高欄のつらに參りたりければ、いひつること今ひとかへり、我にいひてきかせよと  
仰せければ、さかつほの事を今ひとかへり申ければ、我ゐていきてみせよ、さいふやうありと仰  
られければ、かじこく恐しく思ひけれど、さるべきにや有けむ、おひ奉りてくだるに、びんなく人  
追ひてくらんと思ひて、その夜勢多の橋のもとに、此宮をすへ奉つり、せたの橋を一聞ばかりこ  
ぼちて、それをとびこして、此宮をかきおひ奉りて、七日七夜といふに、武藏の國にいきつきけり、  
みかどさきさきみこ失せ玉ひぬとおぼしまど、ひもとめ給に、武藏の國の衛士の男なん、いとこ  
ばしきものを首にひきかけて、とぶやうに逃けると申いで、この男をたづぬるになかりけり、  
論なくもとの國にこそ行らめと、公より使くだりて追ふに、勢多の橋のこぼれて得ゆきやらす  
三月といふに、武藏の國にいきつきて、此男をたづぬるに、此みこ公使を召して、吾さるべきにや  
有けん、此男の家ゆかしくてゐてゆけといひしかば、あて來たり、いみじくこゝ在り、よくおほゆ  
此をのこつみしにうせられれば、我はいかであれど、これも前の世に、此國に跡をたるべき宿世こ  
そありけめ、はや歸りて公けに、此ましを奏せよと仰られければ、いはんかたなくてのぼりて、帝  
に斯なん有つると奏しければ、いふかひなし、其男を罪しても、今は此宮をどりかへし、都にかへ  
し奉るべきにもあらず、竹芝の男にいけらん世の限り、武藏の國を預けとらせて、公けごともな